

どちらが正しい？

karinomaki

医師と公務員

私の父は、内科医で、母方の祖父は公務員でした。そして、いつもその自己顕示欲からけんかが絶えませんでした。

実力か学歴か

私の父は、医師という仕事に、過剰な自信を持っていました。一方の祖父は、世間体や対面を気にする人間で、早稲田大学卒の学歴を自負し、その栄光で生きているよううすっぺらい人間でした。

確かに父は、医師の仕事がこの世でいちばん素晴らしいと思っている、ある意味傲慢な人でしたが、私は父を愛し、祖父が大嫌いでした。

中身がドロドロ

話はそれますが、私は今風邪をひいていて、昨日の晩は悪夢にうなされてしまいました。悪夢、苦しみとは、どんなに高い塔をたてても、縁を切れないものなのです。それは、祖父のような人間がいるからです。この世界は、中身がドロドロなのです。心の貧しい人間のせいで。

実践理性批判

カントの実践理性批判は、この、ドロドロの中身と徹底的に戦った著書と言えます。厳しい道徳書なのですが、うわつつらだけの美しさをこっぴみじんに破壊しているのです。定言命法という言葉で。

この言葉は、ある意味で、心の天国から降りてくる使命感と言えます。

学歴や対面のような、うすっぺらいものではなく、底からわきあがる自信を糧に生きる人間が、心の天国からの使命感を引き出すのです。

祖父が、公務員という仕事にだけ、自信を持っていたのなら、父とはけんかにはならず、逆に父の、医師がいちばんえらいという思い上がりを、正せたかもしれないのです。

うすっぺらさと、実力本意主義の父は、いつまでも対立し続けるだけでした。

カントは、実践理性批判の結語で、星空に思いを馳せています。星空と道徳法則をつなげているのです。

学歴というものほど、人をだめにするものはありません。人がうらやむような学歴を持っていても、それを表に出したりすることなく、その学校に合格するまでに勉強した過程を心の糧にする、実力主義の人が、私は好きです。もし、学歴や対面を自慢に生きてしまうと、それ以上伸びていくことがなくなってしまいます。

私は気がついたのです。カントは、道徳法則で、星空を見上げたのではなく、道徳が星空に匹敵するくらいまで、上がり続けていくことを目指した人だと、

それには、うわつつらだけの、学歴至上主義ではいけないのです。学歴というものに乗ると、中身がドロドロになってしまうのです。

道徳法則とは、実力を重視するか、心の美しさを追求する人、伸びていく人にしか手に入らない、宝物なのです。

父と祖父

私は、統合失調症で、天の声が聞こえます。間違いなく、父は星の人であり、祖父は落ちて行った人だと心でわかります。私も、許せない人がいて、苦しみでいっぱいになったりします。悪夢にうなされたりもします。でも、「正しい」ということを、常に追求している限り、私は父と同じところに行けると思っているのです。